

令和5年10月18日（水）

教養とは、「人生をわくわくさせる道具」

苦手な勉強をしなければならなかったり、人間関係に気を遣ったり、学校では楽しいことばかりではありませんよね。

楽しいどころか、「学校は義務だから仕方なく通っている」という人もいるかも知れません。

しかし、そういう人でも近い将来、学校での経験を通して、ワクワクすること、面白いこと、楽しくて仕方がないことにきっと出逢うことがあるでしょう。もう既に出逢っている人もいることでしょう。

それは、机の上で学ぶものとは限りません。校舎の外で出逢うかも知れません。授業中ではなく、休み時間や放課後に訪れるかも知れません。

例えば、芸術、絵画、音楽。読書。スポーツ。旅行。

他にも、マンガやゲーム、アイドルやお笑いもあるかも知れません。

しかし、どんなものと出逢っても、ただ見たり聞いたり、体験しただけでは、それほど面白くはなりません。何となく楽しむのも悪くはないけれど、その場だけの楽しさを繰り返すだけでは、何をいくらやっても、いずれは飽きてしまうものです。

本当の面白さを知るには、表面だけでなく、深く知ろうとすることが大切なのです。

では、深く知るにはどうしたらいいのでしょうか。

それは、「考える力」を使うことです。「なぜ？」という気持ちを手がかりに、あれこれ調べたり考えたりしながら、自分なりの考え方やものの見方を身につけていくのです。

芸術や絵画、音楽や読書も、そうやって自分で考え始めて、人生がおもしろく、豊かなものになってくるのです。

このようにして得た、自分の人生を面白くするもの、豊かにするもののことを「教養」といいます。

豊かな教養を身につけた人は、まわりの人も豊かな気持ちにさせてくれます。知って、考えて、深めていく。そうやって得られた教養が、あなたも、あなたの周りの人びとも幸せにするのです。